

# 東北 VALUE SIGHT 宮城



一般社団法人MAKOTO 代表理事  
**竹井 智宏 (たけい・ともひろ)**

1974年生まれ。東北大学生命科学研究科博士課程卒。同大学産学官連携コーディネーター、再生医療のリーディング企業を経て、2007年東北イノベーションキャピタル株式会社に転職。震災後、2011年7月に退職後、一般社団法人MAKOTOを設立。日本青年会議所より「人間力大賞2012 復興創造特別賞」を受賞。米国カウフマン財団のカウフマンフェローとしても活動。

一般社団法人MAKOTO  
宮城県仙台市宮城野区榴岡5-12-55 NAVISビル5F  
<http://mkto.org>

東日本大震災の被災地では、さまざまな人がそれぞれに、強い意志を持って復興のために尽力している。一般社団法人MAKOTOは、被災地からの起業に焦点を定め、困難に立ち向かう起業家を支援し、新しい東北、そして日本を作っていくことを目指している。

## 復興から 創造へ 「志」の起業家育成による東北革新の挑戦

### 震災後、使命感を感じ独立

震災当時、私は仙台にあるベンチャーキャピタル(ベンチャー企業投資会社)に在籍していた。震災の混乱の中で家族のケアが一段落するとともに、この未曾有の事態に自分は何をすべきか考えた。直近で必要なことは、物資輸送やがれき撤去である。しかし、今後必ず訪れる経済復興のフェーズ。そこにいち早く準備していくのが自分のやるべき事だと考えた。特に起業家を支援して新たな雇用創出・経済再生を促進する事、それが東北に住む自分の使命であると感じた。被災地の状況を見ると、起業環境の整わない地域が多く、既存のやり方では限界があったため、思い切って会社を退職し、その社会的課題に挑戦する事を決めた。そうして立ち上げたのが「MAKOTO」である。

### 「志」ある起業家こそ復興のキーパーソン

復興に最も必要なものは何か。それは資金でも政策でもなく、「アントレプレナーシップ(起業家精神)」であると考えている。起業とは無から有を作ること。起業家本人の強烈な意志・信念で、道なき所に道を作る感覚がキーとなる。創業当初は見えていた道はなく、困難だらけである。しかし、成功した起業家が共通して語るのは、「当初、不可能とも思えた事が、突き進むうちに幸運がいくつも訪れて、壁が一つずつクリアされた」という経験である。復興でも同様にこの強烈な意志・信念がキーとなる。資金や政策は後からついてくるものである。この順序が逆になると不幸な結果につながる事が多いと感じている。

この「アントレプレナーシップ(起業家精神)」は、日本ではなかなか根付かないと言われることも多い。グローバルアントレップモニター(GEM)の調査によっても、日本の起業活動率は世界最低レベルである。しかし、言葉は違えど、日本には日本風のアントレプレナーシップがあるのではないだろうか。

それは「志」である。「志」と「夢」は違うという野田和夫先生(事業構想大学院大学学長)の有名な話がある。夢とは何が欲しい、あなりたいという個人の願望。志とは、個人の願望をはるかに超えて多くの人々の願望を叶えてやろうという厳しい決意であり、未来への挑戦である。私の定義では「世のため、人のために体を張っていく」ということ、これが「志」ではないかと思っている。私はこの「志」の有無が事業の成功を大きく左右すると考えている。どんなに偉大な起業家も、創業当初はヨチヨチ歩きであり、お金も時間も圧倒的に足りない。取引先・株主・顧客・社員・家族・友人・知人など周囲を巻き込み、ステークホルダーの協力体制をいかに築けるか、それが成功を決める。そのためには、起業家自身が利己的な考え方や態度ではなく、「志」を持っていることが必要だと考える。

### 被災地から全国・海外へ飛躍する起業家達

震災後、被災地では起業率が高まっている。全国平均よりも1.5倍も起業率が高いというデータもあり、全国でも起業家の多い地域となっている。その多くの起業家を突き動かしているのは、「地域を良くしたい」「ふるさとを良くしたい」という思いである。こうした「志」のある起業家を支援しようと、MAKOTOではたくさんの起業家と接してきた。現在、農業、サービス業、伝統工芸、ITなどさまざまなジャンルの企業を支援しているので、いくつか事例をご紹介させて頂きたい。

まず、ラポールヘア。社長の早瀬渉氏は、東京の大手美容室チェーンの役員だった方で、震災後の状況に使命感を感じ、美容業界への恩返しの意味を込めて、会社を辞めて、縁もゆかりもない石巻に復興美容室をつくった。被災した美容師の方々に職を創

り出そうと奮闘し、2年前に早瀬氏1人でスタートしたこの事業は現在では7店舗70人の雇用を生み出すまでに成長している。

次にGRAである。宮城県山元町出身の岩佐大輝社長は、東京でITベンチャー企業を経営していたが、震災後は故郷山元町のいちご産業の復活を目指し活躍している。東北で最先端といわれるIT制御された生産設備で効率的な運営を実施。フラッグシップモデルとして全国から注目され、日経ビジネスが選ぶ日本のイノベーター30人にも選出された。さらに海外とも積極的にやりとりし、インドでのいちご生産事業を立ちあげるなど、被災地の枠を超え飛躍的な成長を見せている。

### 起業家育成の仕組み作り

私たちは、このような起業家の方々の、事業計画策定や、販路開拓・資金調達などのサポートを行ってきた。私たちのネットワークは首都圏や海外にも広がり、特にシリコンバレーには定期的に訪問してつながりを深めている。

その他にも、起業家が育つ仕組みを作るため、いくつも支援策を立ち上げ実行している。例えばその一つが、コワーキングスペースcocolin(起業家協働スペース)である。仙台駅東口にあるナビスというビルの1階部分を改装して、起業家の入居スペースを創出した。60名弱のメンバーが入居し東北最大級となっている。「志」を持ってチャレンジする起業家が集い、つながる場として活用されている。

2014年は、さらに大きなプロジェクトを手掛けている。世界的なプレゼンイベントTEDxTokyoを運営するIMPACT Japanと提携し、仙台に世界的なイノベーションの拠点設立を準備している。東北の起業家が世界とダイレクトにつながる事ができ、世界

からも人が集うような仕掛けを考えている。このプロジェクトにはカタルフレンド基金のサポートを得ており、2014年末のスタートを目指し準備を進めていく。

### 東北が直面する大きな岐路 そして、私たちの志

私は今、東北は岐路に立っていると考えている。それは震災前から続く、段々と縮小していく元気のない東北であるか、それとも震災を機に生まれ変わった、オープンで力強く活気に満ちた東北であるか、そのどちらに帰着するかという大きな運命の分かれ道である。この震災は、1000年に一度の災害と言われているが、見方を変えれば、震災からの復興が大きなチャンスでもある。この機に、世界中の力を使って仕組みを作り直し、活力ある地域としていく、おそらく最後の機会ととらえている。「世のため、人のために体を張る」のは、今この時ではないだろうか。私たちはそのような使命感を持って、事業に取り組んでいる。大きな志で、東北中の方々のご賛同を得ながら、この東北革新を成し遂げて行きたい。



仙台に国際的なイノベーション拠点を設立する事業のキックオフイベントでの記念写真。カタル大使(左から3人目)や仙台市長(左から4人目)、IMPACT Japanの方々と筆者(右から2人目)